

皆さんはじめまして。

本年度より愛知県美術館に入りました新人学芸員です。企画展の準備や教育普及に関わることになりました。

愛知県美術館は、20世紀以降の美術作品、そして古今東西の美術品を誇る木村定三コレクションという見ごたえのある所蔵品を持っています。それと同時に、作品の保存に関わる優れた設備とスタッフを備えた国内有数の美術館でもあります。

そして、最近では学芸員が美術館の裏側をレポートするこのブログでもひそかにその名が知られているようです！

新年度ということで、今回は、新人の私が美術館スタッフの仕事場の様子をお伝えしたいと思います。

愛知県美術館のスタッフは、館長・副館長以下14人の学芸員と、5人の事務職員を中心に、アルバイト・スタッフや、案内監視スタッフで構成されています。

学芸員の日々の仕事については常にこのブログでも紹介されているので、今回は省略させていただくことにします。

早速ですが、学芸員室に潜入…

まずは受付から。



なぜ学芸員室に受付が必要なの？と思った方もいらっしゃると思いますが、学芸員室には、いろいろなお客さまがいらっしゃいます。美術館の運営に関わる業者の方々、他館の学芸員さん、そしてアーティストも。皆さんをここでお迎えしています。

さて、こちらが学芸員のデスク。

今回は、整理整頓の行き届いたデスクを持つ先輩学芸員Oさんの後姿をパチリ！



学芸員は、ここでメールのやりとりをしたり原稿を書いたりします。たくさんの資料のレイアウトには各学芸員の個性が見られて大変興味深いです。

私も他館の学芸員室をいくつか拝見したことがありますが、机や本棚の配置が異なるものの、皆さんたいていこのようにブース状になった個人スペースで仕事をされているようです。

続いて、パソコン作業のスペース。



もちろん各学芸員は個人用パソコンも使いますが、作品のデータ管理をしたり、画像処理を行う時はここ。ホームページやブログの更新もここでやっています。講演会の垂れ幕を作ったりするための大きなプリンターもあります。

おまけで、工作作業スペース。



キャプションや簡単なパネルは、学芸員やアルバイト・スタッフさんがここで手作りすることも。限られた予算内で必要なものを揃えるため、できることは自分たちで！というわけです。ここでは器用さも問われます…。

去年のあいちトリエンナーレの際には、学芸員Sさんがパネル作りに大活躍で重宝されていたとか。こんな能力もぜひ身につけていきたいものです。

そしてそして、学芸員室の奥には友の会の方々のお仕事場もあります。



会員の方々はここに集まって、美術館のお仕事を手伝ってくださったり、友の会独自の活動をされたりしています。

新人の私は、友の会の活動スペースが学芸員室に隣接してあるということにちょっと驚きました。友の会の活動が美術館に根づいていることを感じます。

友の会の活動は、このブログの過去の記事、および友の会のホームページでも紹介されています。

さてさて、美術館のスタッフは学芸員だけではありません。

各展示会の会計やギャラリー利用に対応する事務スタッフも、美術館には欠かせない存在です。学芸員とは違った意味で、美術館のプロフェッショナルと言える方々。新人の私たちも美術館の運営のしくみを教わるが多くなりそうです。



学芸員の部屋とは少し雰囲気違いますね。

そして、忘れてならないのは、展示室で働く案内監視スタッフさんたち。そのお仕事は[こちら](#)で紹介しています。

他にも、警備スタッフや清掃スタッフなど、美術館を安全で快適な場所として利用してもらうために働くスタッフの存在も大切です。

「学芸員って普段はどこにいるの？」と質問されることも多いですが、学芸員だけでなく美術館スタッフのほとんどが、このように展示室の裏側でひっそり(?)仕事をしています。展覧会を見にいらした時には、壁の向こう側に私たちの働く姿を想像していただけるとちょっと嬉しいです。

今年度は新人が2人ということで、学芸員チームも若者が増えましたが、一日も早く一人前になれるよう、奮闘せねばと思っています。

美術館の現場ではまだまだ学ぶことが多いですが、先輩の皆さんと力を合わせて魅力的な美術館を作っていくとともに、このブログも盛り上げていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

私の同期であるもう一人の新人学芸員も、まもなくブログに登場する予定です。楽しみに！

(S.N.)